

教育目標	<p>広く世界に目を向け、次の世代をになう、豊かな心をもった、たくましい子どもを育てる。</p> <p>めざす学校(○笑顔にあふれ、生き生きと学び合う学校 ○花を愛し、音楽を愛する心が育つ学校 ○安全に、安心して学べる学校)</p> <p>めざす子ども(○自ら学び、深く考え、行動する子ども ○思いやりがあり、助け合う子ども ○自他の生命と体を大切にす子ども)</p> <p>めざす教師(○豊かな人間性と教育的愛情をもつ教師 ○常に新たなことに挑戦する教師 ○学校組織の一員として自覚を持ち、協働する教師)</p>
-------------	---

前年度に残された課題	本年度の重点課題	来年度に残された課題
<p>①体育授業を計画的に、かつ系統立てて実践し、より内容を充実させる。児童がより自主的に活動できるように環境を整えていく。</p> <p>②なかまと協力し楽しく学校生活が送れているか、児童の小さな変化に目を配り、早期に対応していく。</p> <p>③生活目標「心地よい 学校生活を送ろう」をより高めていくため、自律性を高める声掛けや指導をしていく。</p> <p>④児童の道徳性の向上を目指して、「考え、議論する道徳」の授業の充実を図る。</p>	<p>①豊かな「つながり」を大切に、進んで運動に取り組む子を育てるために、体育科授業を計画的に行い、内容を充実させる。また仲間との関りを持てる学習を展開する。あわせてストレッチや体力向上につながる運動の実践をもとに、俊敏性、柔軟性や筋力を高める。</p> <p>②なかまと協力し楽しく学校生活が送れているか、児童の小さな変化に目を配り、早期に対応していく。</p> <p>③生活を振り返らせる中で、その活動意義を掴みとらせる。また、児童がお互いに声をかけ合いながら規範意識を高めていく。</p> <p>④本校の重点内容項目を、「善悪の判断、自律、自由と責任」、「勤労、公共の精神」、「規則の尊重」とし、児童が自分の考えを伝えたり、他の人の考えを聞いたりしながら、自分自身のことを考え、道徳性を養うことができる授業の実現を目指す。</p>	<p>①進んで運動に取り組む子を育てるために、豊かなつながりを大切にした授業や行事を行う。また目に見える形でも児童が体力の高まりを実感できるようにしていく必要がある。</p> <p>②「あたたかい学校・学級づくりをめざして」をめあてに、なかまと協力し楽しく学校生活が送れているか、児童の小さな変化に目を配り、早期に対応していく。</p> <p>③生活目標「心地よい 学校生活を送ろう」をより高めていくため、自律性を高める声掛けや指導をしていくとともに、児童自ら主体的に学校の規範作りをできるよう各委員会を通して取組を続けていく。</p> <p>④研究教科を「外国語」とする。言語活動を取り入れた授業を通して、自分の考えや気持ちなどを、伝え合うことができる力を養う授業の工夫を進める。</p>

重点課題番号	具体的達成目標と評価指標		自己評価		外部アンケート		自己評価		学校関係者評価		
	具体的に、何を、いつまでに、どの水準まで、数値化		中間評価		児童生徒アンケートからの分析		保護者アンケートからの分析		最終評価		
	公表日 6月25日	公表方法 <input type="checkbox"/> ホームページ <input type="checkbox"/> 文書配布 <input type="checkbox"/> 説明会実施 <input type="checkbox"/> その他	評価日 9月2日	公表方法 <input type="checkbox"/> ホームページ <input type="checkbox"/> 文書配布 <input type="checkbox"/> 説明会実施 <input type="checkbox"/> その他	評価日 2月19日	公表方法 <input type="checkbox"/> ホームページ <input checked="" type="checkbox"/> 文書配布 <input type="checkbox"/> 説明会実施 <input type="checkbox"/> その他	評価日 2月19日	公表方法 <input type="checkbox"/> ホームページ <input checked="" type="checkbox"/> 文書配布 <input type="checkbox"/> 説明会実施 <input type="checkbox"/> その他	評価日 2月19日	公表日 3月2日	評価日 2月26日
①	<p>○ストレッチを計画的に実施できるように、年間計画を作成する。具体的な動き、効果がわかるように終礼等で先生方に紹介する。</p> <p>○休み時間以外へ遊びに行く頻度が上がるように、各学級で学級遊びを行ったり、運動集会の練習への参加を促す。</p> <p>○学習カードを活用し、思考力、判断力をつける。</p> <p>以上の取り組みにより「運動することが好き」という児童が90%、「体育の勉強でできることが増えた」という児童が90%を超えるようにする。</p>	<p>「運動することは好き」「体育の授業を一生懸命できた」「できることが増えた」と肯定的に答えた児童は、いずれも90%を超えており、高い割合であった。児童は授業に意欲的に取り組んでおり、自分の成長をしっかりと感じていることが分かる。授業の初めにめあてを示し、終わりにはしっかりと振り返りを行うことが定着してきている。指示資料や学習カードを活用することで分かりやすい授業づくりを継続していく。</p> <p>リレー集会には、50チーム以上が参加し、運動に親しむ機会をもつことができたが、「休み時間によく外で体を動かした」と答えた児童は76.8%と、他の項目と比べて低い傾向にある。学級遊びの定期的な実施や、外に遊びに行くような声かけを積極的にしていきたい。</p>	<p>どの項目も1学期に引き続き、肯定的な意見の割合が高い。特に「休み時間によく外で体を動かした」と答えた児童が多くなっており、全体で88.2%である。これは1学期に行ったアンケート結果と比べると、12%近く上昇している。学級遊びや運動集会などを通して、体を動かすことの楽しさを感じる児童が増えてきた成果であると考えられる。</p> <p>また、体育の授業を児童の実態に応じて計画的に行い、めあてを示すことで、体力の高まりを感じ、運動が好きになる児童も増えている。児童が進んで運動に取り組めるように、今後も継続的に取り組みを行っていきたい。</p>	<p>「学校は、子どもの体力向上に向けて取り組んでいる」の肯定的な意見は96.2%と、高い割合である。これは昨年度から変わっていない。</p> <p>児童の体力の高まりをより実感できるように、今後も取り組みを続け、体力テストなどの目に見える形で成果を上げていく必要があると考える。</p>	<p>各学級で行っている学級遊び、学年での運動タイム、毎学期全校で行う運動集会など、1年を通して運動に関わる機会を多く作っている。そのため、運動に親しみを持っている児童が多い。運動行事をきっかけに、外で遊びに行く児童も増えている。体育の授業においても、児童の実態に応じて計画的に進め、進んで運動に取り組ませることができた。授業を通して、友達同士で声を掛け合ったり、補助をしたりする機会を増やし、学び合いができる環境をより整えていきたい。</p>	<p>朝のストレッチ体操の全体的な取組により、体の柔軟性が増し、けがが少なくなっているようであり、帰宅後や休日に日常的に体を動かして遊ぶ機会が減っているが、学校では、ドッジボール大会や駆け足納め会、大縄跳び大会など体力づくりに取り組んでいるのを継続してほしい。駆け足納め会で治道の声援に励まされ、懸命に走る姿に感動した。体育の様々な到達カードの利用により児童の励みになっているし、お互いに励まし合っているのはいいことだ。</p>					
②	<p>○児童の実態に応じた道徳教育を目指す。</p> <p>○授業のユニバーサルデザインの取り組みを収集し、紹介する。</p> <p>○「ほかほか言葉」の年間計画に基づいて指導を行う。</p> <p>以上の取り組みを行い「なかまと共に学ぶ」ことを嬉しく感じる児童を85%以上にする。</p>	<p>巡回アドバイザー等の指導を参考に児童の実態把握に努めている。「なかよく学校生活を送っている」と肯定的な回答をした児童の割合は、学年が上がるにつれ大きくなっている。これは、教師集団で共通理解し指導している成果だと考える。「仲間が頑張る様子を見て、自分も頑張ろうと思う」「困っている友達に声かけできた」に関しては、学年によっては目標の85%を達成できていないので、今後も、行事への取り組みなどを通じ、頑張っている児童を推奨し、友達と協力することに喜びを感じる児童が増えるよう指導していく。</p>	<p>「協力しなかよく学校生活を送ることができている」と肯定的に回答した児童は、98%。「仲間が頑張る様子を見て、自分も頑張ろうと思うことがある」の肯定的な回答は87.4%である。行事など仲間と力を合わせて取り組む活動を設定し、細やかに指導した成果が表れていると考えられる。</p>	<p>「子どもは、友だちと仲良く学校生活を送っている」の肯定的な回答は96.1%。「学校は、子どもたちに思いやりの心を持たせ楽しい学級作り・学校作り」の肯定的な回答は89.7%であった。どちらも高数値と言える。しかし、前者は、昨年と比べ1.3%下がっている。引き続き懇談会や通信などで学校の取り組みを伝えていきたい。また、児童の小さな変化に目を配り早期に指導するように、いっそう心がけていきたい。</p>	<p>「協力しなかよく学校生活を送ることができている」「仲間が頑張る様子を見て、自分も頑張ろうと思うことがある」と肯定的に回答した児童は目標数値を超えている。行事など仲間と力を合わせて取り組む活動を設定し、今後継続してほしい。ユニバーサルデザイン化の推進によって、どのクラスも取り組みやすくなっているのではないかと考える。</p>	<p>給食時に毎月、その月に誕生日を迎える児童が放送で紹介されるのは、一人一人が大切にされている雰囲気があるといいことだ。ほかほか言葉の取組は、温かい言葉を互いにかけることで、子どもの心が育つので、今後も続けてほしい。ユニバーサルデザイン化の推進によって、どのクラスも取り組みやすくなっているのではないかと考える。</p>					
③	<p>○年間目標を各教室・廊下等に掲示する。</p> <p>○委員会の児童を中心に、お互いに声かけをさせて廊下の歩き方を意識させる。</p> <p>○サイレント掃除をし、みんながきれいと思える清掃活動をさせる。</p> <p>○相手にとどく、心地よいあいさつができるよう、心がけさせる。</p> <p>以上の取り組みで、廊下歩行の約束を守れた子80%以上、みんながきれいと思える掃除ができたと思える児童80%以上、相手にとどくあいさつができたと思える児童90%以上にする。</p>	<p>廊下歩行については、右側通行ができていた児童は全体の89%であったが、歩いている児童は79%であった。走ってしまう児童の理由として「急いでいたから」を選んでいる児童が80%と多く、余裕を持って行動するよう学年に応じて指導するなどして引き続き意識できるよう指導していく。また、教室や廊下で遊んでいる児童もいるので、なぜ走ってはいけないのかを理解した上で、児童間でお互いに声かけができるようにしていきたい。</p> <p>清掃活動では、82%の児童ができていたと回答しているが、サイレント掃除の意識は学年が下がるにつれ、まだまだ低い。継続して指導していく必要がある。</p> <p>あいさつは、どの学年も気持ちよくできている。高学年は地域でのあいさつも含め、続けていけるように指導していく。</p>	<p>廊下歩行については、生活の中で走らずに歩いている児童の割合は高く、意識付けは進んでいると考えるが、目標数値にはとどいていない。予鈴前に行動するなど余裕をもって行動できるよう、今後も指導していく。</p> <p>掃除は、1年生と6年生の割合が高く、6年生が各学年のトイレ掃除や1年生の掃除補助にいくことでお互いに意識付けできた結果だと考えられる。周りの友だちの行動を見て、自分の取るべき行動を判断できるよう、来年度も取り組んでいく。</p> <p>あいさつは、元気にできる児童が多い。相手に意識して丁寧に自分からできる児童が増えるよう、今後も指導する。</p>	<p>「子どもは、交通ルールを守って登下校をしている。」については、肯定的な意見が97%で、理解いただいている。地域の方々の立哨や声掛けの支援に助けられているところも多いので、今後も連携していきたい。</p> <p>「子どもは、あいさつを進んでいる。」の項目については、「できている」と感じている保護者が82%であった。校門前の登校指導では概ねできていると感じる。今後は、決まった場面だけでなく、相手を意識した場に応じたあいさつを自分からするなど、あいさつの質がさらに向上するよう、声掛けを大切にしていきたい。</p>	<p>「生活のめあて強化週間」を毎学期実施し、高学年の児童が下学年に指導をかけたたり、ていねいな学級指導をしていただいたりすることで、休み時間の終わりに予鈴がなる運動場にいる大半の児童は走って校舎に戻ると、引き続き児童の規範意識は高く、落ち着いた学校生活を送れている。本年度はエアコンの導入に伴い使用方法や規則を検討したが、大きな問題なく取り組むことができた。引き続き落ち着いた学校生活を送れるよう指導していくとともに、気持ちの良いあいさつを目指すなど、学校生活の質の向上を目指していきたい。</p>	<p>この1年、大きな事故や事件もなくよかった。また、今年度、交通安全優良学校として奈良県交通安全協会から表彰されたのは、これまでの地域をあげての取組が評価されたからだろう。土曜参観日に実施した保護者への引き渡し訓練は、今後も継続してほしい。学校に来るたびに、児童が掃除しているトイレもきれいで、清掃指導が徹底されていると感じる。道で会っても子どもたちは、進んで挨拶してくれて気持ちがいい。</p>					
④	<p>○道徳の授業を年間35時間行い、児童の道徳性の高まりについて評価を行う。</p> <p>○重点教材を選定し、考え、議論する道徳の授業についての実践を積み重ねることにより良い道徳授業について研修を進める。</p> <p>以上の取り組みを行い、「道徳の授業が好きだ」と肯定的に回答する児童の割合が80%以上になるように、また、「道徳の授業で対話を通して、自分のことについてよく考えている。」と肯定的に回答する児童の割合が80%以上になるようにする。</p>	<p>7月末の児童アンケートの結果、「道徳の授業が好きだ」と肯定的に回答した児童の割合は、学校全体で85%であった。また、「道徳の授業で対話を通して、自分のことについてよく考えている」と肯定的に回答した児童の割合は学校全体で89%であった。これらのことから、1学期道徳の授業を児童は肯定的にとらえており、教師が対話を通して自分のことを考えられるように授業の工夫をしていることがわかる。</p> <p>学校の重点課題にあたる教材の指導については、授業研究をしながら、児童の道徳性の向上を目指して取り組みを強化する。引き続き、主体的・対話的で深い学びにつながるよう、進めていく。</p>	<p>「道徳の授業が好きだ」と肯定的に回答した児童の割合は、全体で84%と、年度当初の目標とした80%を上回った。これは、教員が研究を深め取り組んだことが得点の向上につながっていると感じる。これらは、道徳科の取り組みだけでなく、他教科や行事など学校生活全体を通して道徳教育を行ってきた成果であると考えられている。</p> <p>どの学年も自己肯定感が低い児童が多いことが、課題として挙げられる。学年がかかるにつれて、自分を客観的に捉えられたことと考えるが、引き続き考え、議論することの価値を児童に理解させられるような授業を展開することが重要である。</p>	<p>「道徳の時間に勉強したことを話すようになった児童の割合は、10項目に対し、4割以上の児童が家で道徳の話をするようになってきている。また、「子どもの道徳性が高まったと感じられることがある。」では、7割以上の保護者が子どもの道徳性が高まったと感じ、「わからない」と答えた保護者の割合は減った。このことから、昨年よりも、学年通信などで知らせた道徳の内容を家庭で話して、考え方に触れる機会が多くなってきたのではと考える。</p> <p>今後道徳科について保護者への発信をし、理解を促し協力を仰ぐような取り組みを進めていきたい。</p>	<p>昨年度に引き続き、道徳科の研修を進めてきた。年間計画を作成し、35時間の授業を計画的に行うことができたことや、ワークシートを作成し、さらに改良、工夫し評価にいかしてきたことは、成果である。しかし、「考え、議論する道徳」を目指す授業の質の向上の点ではまだ課題が残った。</p> <p>今年度の研修で学んだことを生かしながら今後も、各学年で「考え議論する道徳」の授業の実現に向けて、「わからないを意識した授業づくり」や「児童の学びを教員がどのように支援していくか」をその中心に据え、授業改善に取り組んでいきたい。</p>	<p>どの学年も道徳の公開授業を行い、研修しているのは素晴らしい。帰宅後家族に道徳の授業の話をする児童が、昨年度より5%ほど増えているのは取組の成果の表れだろう。引き続き、心に響く道徳の授業をお願いしたい。また、児童の心を育てるには、家庭教育も大切だ。その意味では、校長通信や校長先生の子育て講演会などは、保護者の意識を高めるのに大変効果的だったと思われる。</p>					